



日本の政策シンクタンク

林 良造

明治大学
国際総合研究所 所長

40年間、経済産業省から東京大学公共政策大学院、そしてさまざまな企業の社外役員と角度を変えながら、日本の経済政策を考え続けてきた。その間、これだという決め手には簡単に出会わないことは当然としても、気になるのは議論の厚みの不足であった。ともすると、選択の幅のない提示や、俗説と相当の試練を経てきた議論とが並列的に取り扱われているケースも多い。その解決策の一つとして、政策立案のインフラとしてのシンクタンク機能を拡充することを考え続けてきた。

MIGA（明治大学国際総合研究所）もその一つである。東京大学の公共政策大学院で、途上国の実務経験者を対象にした国際プログラムがスタートして一息ついたところに、当時の明治大学納谷廣美学長から「以前お話をした、大学を基盤にした総合的なシンクタンク作りを具体化したい」との連絡があった。

それまで携わった、経済産業研究所、東京大学政策ビジョン研究センター、キャノングローバル戦略研究所などさまざまなシンクタンクのケースを参照しながら、研究分野を絞り、体制などを整えていった。約一年後には、東アジアをめぐる諸情勢と、世界各国が共通して抱える経済問題を対象に、産学官を結集し提言をまとめ、広く発信していくものにするという大まかなアウトラインができた。

そして、二年後の昨年4月に、御茶ノ水駅の近くにGLOBAL FRONTという新しい17階建てのビルが完成し、その16階に研究所を設け、幅広いサポートとやる気のある多くの研究員・スタッフに恵まれ、本格的に活動を始めた。

昨年10月には、川口順子元外務大臣を特任教授に迎え、安全保障分野の研究プロジェクトも全面的に開始した。その結果、現在、米中関係、中東問題、東アジアの経済統合、コーポレート・ガバナンス、サイバー・セキュリティ、医療政策など各先端的分野で10以上の研究会を行い、この春には、数回の国際的シンポジウム、ワーク・ショップなどを開催するところまでできた。今後も、さらに大きく育っていくものと期待している。

次回リレートーク：長門 正貢（シティバンク銀行 取締役会長）